侵略戦争の歴史みつめ

伊那民報

発行：日本共産党
伊那市委員会
伊那市狐島3879
TEL：72－2465
ホームページ
「ＪＣＰ上伊那」

平和守る集い盛んに

この８月15日で、日本が進めた侵略戦争と植民地支配の終結から73年になりました。先の戦争では、アジア・太平洋地域で二千万人余、日本人三百万人以上が犠牲に。その反省から生まれたのが日本国憲法です。

核と戦争のない世界願い
市民の会が祈念式典

広島に原爆が投下されてから73年目を迎えた６日朝、伊那市民平和祈念式典が原爆の火が灯る山寺の丸山公園で開かれました。主催は、非核平和都市宣言をさらにすすめる伊那市民の会。市が共催。未来に向けて核兵器と戦争のない平和な世界を願いました。

挨拶する建石繁明会長（丸山公園）

平和な未来を願って献花する参加者

原爆投下の８時15分に常円寺の鎮魂の鐘と市のサイレンが響く中、参加者約50人が黙祷しました。

建石繁明市民の会々長は、「核兵器は人類とは共存出来ない。

米朝首脳会談による北朝鮮の非核化は歴史的な進歩だ。武力でなく対話で進めるきっかけになり、見守り続けたい。平和のための活動を続けよう」と呼びかけました。

平和願い灯籠流し

５日夕、伊那市役所南側せせらぎ水路で灯籠流しが行われました。

非核平和都市宣言をさらにすすめる伊那市民の会が伊那まつりに合わせて行っている恒例の行事。

「笑顔で平和に暮らせますように」「戦争がおきませんように」などの願いを書き入れた高さ約20センチ程の１０２基の灯籠を子ども達が家族と一緒に流していました。

願いを託した灯籠を流す女の子

会場では、東春近９条の会が、「安倍９条改憲ＮＯ！」の署名をお願いして、55人の方から賛同をもらいました。（写真）

地蜂

「世界中の人に言えばいいんです。私たちはもう戦争しません。軍隊も持ちませんて」、帰還兵の夫に言った。しんぶん赤旗の連載小説「遠き旅路」の一場面である。夫は中国で少年を斬首などして、そのフラッシュバックに苦しんでいた▼筆者（私）の幼少のころ、Ｓちゃと呼ばれる「きちがい」がいた。しかし地区の大人は誰もがＳちゃを馬鹿にしてはいけないと言った。Ｓちゃは帰還兵だったのである。数年してＳちゃは自死し遺児が残った▼千葉県の陸軍病院には「戦争神経症」で45年までに一万人が収容されたと信毎の丸山貢一主幹は著述している。こうした兵士の多くは戦地から逃避とされ恩給支給対象外とされたと。戦後、元兵士は様々な戦中の経験を胸に秘め市民生活を送り、高齢になってその固い胸の内を語り始めた▼君が代の国歌化、自衛隊の海外派遣、戦争法強行と一つ一つ自民党は布石を打ってきた。唯一の被爆国が核兵器禁止条約に反対し、軍事費は５・３兆円に増強、北朝鮮の脅威が減少する中、６千億円もかけてイージス・アショアを秋田市と萩市に配備、戦争の気配が忍び寄る。（Ｅ・Ｋ）

原水禁世界大会に参加

戦後73年目の夏、原水爆禁止世界大会に、Ｇｏ For Ｐｅａｃｅ（ＧＦＰ）上伊那として10回目の参加をしました。初参加者を含め13人で広島を訪れました。

昨年の核兵器禁止条約の成立やＩＣＡＮのノーベル賞受賞、朝鮮半島の非核化など、情勢の国際的な前進の中、核兵器禁止条約に公然と反対する日本政府への対抗策として、〝原水協と原水禁の共闘〟や、沖縄の闘いからの教訓、世代を超えた被爆の実相の継承など、かつてなく幅広い協力・共同・共闘が強調されました。

広島大会の行進

世界大会に初参加の学生からも、核廃絶に向けた日常の活動への模索が語られるなど、新たな担い手も広がっています。

ＧＦＰのツアーは、若い世代の被爆地訪問と幅広い世代間の交流を目的としています。来年は、あなたも参加してみませんか？　（岡田）

被爆と終戦の８月 各地で平和行動

暑さに負けず、８月も各地で平和行動が取り組まれました。

手良９条の会は、手良坂交差点付近で、**竜東と東春近９条の会**は、竜東橋北交差点で、**青年の会**は、大萱交差点でスタンディング。

高遠９条の会は、29日（水）午前７時～８時、三峰川橋南交差点で平和を呼びかけるスタンディングを予定。また、地域を訪問して「９条改憲ＮＯ！」署名に取り組みました。

署名に取り組む高遠9条の会会員

西箕輪の会は、20日午前、核廃絶ヒバクシャ国際署名と改憲ＮＯ！・３０００万署名を集めに地域を訪問しました。

「会」は、毎月２回の署名行動の取り組みを継続。７月末で、３０００万署名は、１１５７人、核廃絶ヒバクシャ署名は９６１人になりました。「目標まで、もう一息」とがんばっています。

行動後、世話人らで、みはらしの湯で暑気ばらい交流をしました。

「平和・民主主義」語り合う
―母親大会分科会から

６月に宮田村で開催され、約２百人が参加した上伊那母親大会。「平和と民主主義」をテーマにした分科会の様子の一部を紹介します。

助言者の有坂ちひろさんから「いまの政治、『森友・加計問題』など子どもの前で平気でウソをつく。子どもたちは大人を信用していない。

一方、原水禁大会や平和の取組みで若者と同じ目線で話すと対話になる。若者とのつながりを築く方向を見い出すことができれば」などの問題提起がなされました。

若者にも視点を当てた取り組みを

教育の現場からは、

「子どもたちは、やっつけたり、殺したりの戦争もののゲームをよくやっているが、影響が怖い」「高校再編は問題が多い、学校の格差が広がり加速していくのではないか」「少人数学級がなくなり、一人ひとりに合った対応が出来なくなる」との意見や、「平和ゼミで原水禁大会に参加した学生が自分の考えを発表していたのはよかった」「高校生はデモや署名に違和感をもっている」「韓国の大集会やデモを見たり、日本の学童保育を真似て要求運動しているのを見て、これが民主主義なのだと実感した」との感想が述べられました。

「民主主義は面倒。企画したのに乗るのが一番楽」という子ども達がいることや、憲法が一〇三条まであることを知らない子どもも多い現実の中で、「小さな取り組みでもいい、学習や日頃の積み重ねが大切。学校教育が大きく関係しているが、地域の取り組みでも、高校生などの若者を意識した企画が必要」との認識で一致しました。

第6回商工フェア

子ども連れでにぎわう

8月19日、いなっせ北広場&室内で、第6回目の商工フェアが開催されました。

上伊那民主商工会の主催で、会員が、包丁研ぎやお菓子作り・もちつき・塗り壁など、多種多様な仕事をアピールし、商店街の活性化を目的に開催したものです。

約40種のブースに、たくさんの若い親子連れが訪れ、いろいろな体験を楽しんでいました。

「何ができるかな？」

会場は来場者でいっぱい！

会では、「多くの人に楽しんでもらい、いろいろな体験を通して民商のことを知って頂く機会になっている」と話していました。

市議の窓

上伊那の救急搬送の課題

柳川ひろみ

8月は上伊那広域連合議会があり、救急搬送について取り上げています。

2次救急・3次救急指定病院は少なく、救急隊員は搬送先の確保に時間がかかるケースもあります。

医師不足の課題は特に上伊那北部は厳しい状況です。自力で病院に行ける時は、救急車を呼ぶより早い場合もあります。

医師不足には公立3病院だけでなく、民間病院への、県による医師の派遣など必要と考えます。また、消防署と各病院との情報連携も大切です。

原発なくせ いな金行動

福島原発事故のあと「さよなら原発上伊那の会」（事務局・上伊那医療生協）は、毎週金曜の午後6時から、いなっせ北側広場で「原発なくせ」とアピール行動に取組み、8月24日で286回になりました。

会では「通行人の激励が増えている」と話しています。

原発なくすまで、毎回欠かさずがんばります。闘いは粘り強く！！

連載

尊厳「光は束となって」

人権闘争総括集より

中部電力人権裁判闘争の22年（2）

☆中電版村八分の実態

「望月さんの場合」

昭和44年、会社は、望月さんの婚約者のEさん（当時、飯田支社管理会計係勤務）に対し色々な妨害を画策していました。管理課長の大村氏は、Eさんを職場の近くの喫茶店に呼び出し、「結婚すると聞いたが、相手の望月君は思想が良くない。結婚は止めた方が良い」と再三説得していました。結婚を間近にひかえたEさんは、結婚資金を共済会に15万借りる申請を行いました。申請書には保証人が必要なため、先輩の川崎さんにお願いし保証人になってもらいました。

ところが、提出した申請書が戻ってきました。川崎さんが、会社から「保証人になるな」との攻撃を受け、保証人をとりさげたためです。

困難を乗り越え望月さんとEさんは、親戚や多くの仲間に祝福され結婚しました。

その後、会社は突然、Eさんが妊娠していることを知りながらEさんに対し、電車通勤で一時間半かかる平岡電力所への転勤を命じました。理由は「通勤可能地である」「会計業務ができる人を望んでいる」等で、本人の事情、意思を無視した一方的な転勤命令でした。Eさんは身重となり、時期的にも大事な時で通勤は困難なので社宅に入れるよう要望したところ、借りる事が出来ませんでした。（中略）中電による差別の一端ですが、望月さんは争議中に自から命を絶ちました。Eさんは夫の意思を貫き通しました。（石川　博）

随想

市議選余話・地域推薦（二）

元伊那市議　**原　弘**（86）

二度目の市議選の時だったと思います。当時、私は、西箕輪の鈴木亀春候補のところへ、本部からの連絡員として、毎夜、足を運んだものでした。鈴木さんは、選挙前の羽広地区の有権者大会というか総会に於いて、当地区からどうしても鈴木さんを市会議員に出そうではないかという強い要望により、立候補したわけです。

当時、車は無く、足と言えばバイクが主体で、私のはメグロ二五〇という代物で、音が、トカッ　トカ、トカットカという独特の音をしており、夜、事務所へ行くと、このバイクの音で私が来たことが判り、「下から原が票を持ちに来たから気を付けろ。」などと言われていたりしました。もちろん、票など左右することはできません。

そんなある夜、羽広へ上っていくと、一月寒中の寒い夜に、オーバーの襟を立て、手をポケットに入れた方々が、三々五々、大萱を目指して下りてくる。この人達は、大萱にももちろん候補は居るけれど、鈴木当選の為にと大萱へ支持拡大をと出かけてきた方々で、この寒い中、本当に申し訳なくも有り難く思いました。

地域の人達が、この人こそ我々の代表たり得ると情熱をこめて応援して下さり、見事、当選させていただき、その後、鈴木さんは、福祉のまちづくりを大きく掲げながら、混迷を極める農政の中にあって、地元の農業・農家のためにと、西部開発、羽広工業団地、また、憩いの場として「羽広荘」建設へと奮闘されたわけです。

催し案内

☆ 新婦人3000万署名行動
8月27日（月）午後４時～５時
ＪＡ本所前

☆ 高校再編学習会
8月27日（月）午後７時～
伊那市防災コミュニティセンター（市民体育館西）
講師:林　茂樹氏（県高教組副委員長）

☆ わたしたちのためのロウドウ学校
9月1日（土）午後７時～　有報堂　会費100円

☆ ヒューマンライツ・フェスタ伊那
9月14日（金）午後６時半～ いなっせホール
お話：伊波　敏夫さん　歌：沢　知恵さん
入場料：大人１５００円（当日１８００円）
小・中・高生５００円（当日６００円）
主催：実行委員会
（連絡先：上伊那医療生協　☎79-8702）

☆ 党創立９６周年記念レセプション
9月23日（日）午後３時～５時（受付２時半～）
ＪＡ上伊那フラワーパレス　参加費：2000円
挨拶：井上さとし参議院議員

風物詩
大道芸（伊那まつり）

毎年、多くの大道芸人が、多様な技をくりひろげています（市役所広場）

☆ 第40回赤旗信州秋まつり
10月7日（日）午前９時～午後４時
やまびこドーム

☆ 「脱原発」いな金行動
毎週金曜日午後６時～６時半

☆ アベ政治を許さない行動
9月3日（月）午前７時半～

戦争法廃止行動
9月19日（水）午前７時半～
主催：九条の会など